

音シャットフレーム 施工要領書



防音・騒音対策なら静科にご相談を！

株式会社 **静科**

〒243-0807 神奈川県厚木市金田492-1

TEL:046-224-7200 FAX:046-224-7210

E-mail:info@hitori-shizuka.co.jp <https://www.hitori-shizuka.jp/>

■ 施工に必要なもの ■

防音下地材「音シャットフレーム」



躯体と仕上げ面の縁を切り、空気層を作り振動エネルギーを軽減できる防音下地材。
床・壁・天井の下地材としてお使いいただけます。

遮音材「遮音シート」



アスファルト系の建築用遮音シート。
音シャットフレーム工法と組み合わせての使用を推奨しています。

※床には4mm以上、壁・天井には2.4mmを使用してください。

コンパネビス・軽天ビス



下地が木質の場合は、「音シャットフレーム」をコンパネビスにて固定してください。
「音シャットフレーム」に石膏ボードを固定する際は長さ28mm以下の軽天ビスを使用してください。

ロックウール 80kg/ m³ 40mm/25mm厚



音シャットフレームの間に敷き詰める資材になります。
※音シャットフレーム工法は「音シャットフレーム」とロックウールで荷重を支える構造になりますので必ず音シャットフレームとロックウールを併用してご使用ください。

工具



音シャットフレームの長さを調整する際には、「高速カッター」「ディスクグラインダー」「金切りバサミ」等でカットできます。
※音シャットフレームの材質は軽量鋼0.8mm厚
ビス止めには「インパクトドライバー」音シャットフレーム切り詰め時の穴あけ作業には「ステップドリル」をご使用ください。

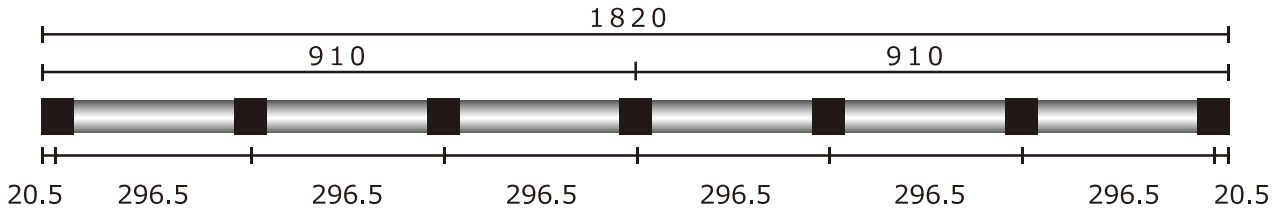
接着剤（コンクリート下地時のみ）



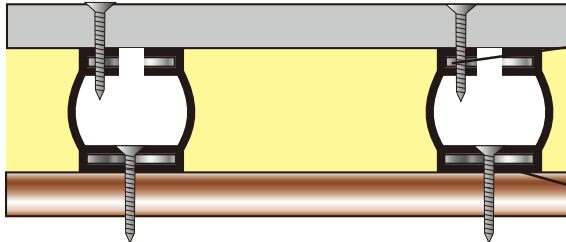
下地がコンクリートの場合は、コニシ(株)の「ボンドK120」または同等品にて「音シャットフレーム」を接着してください。

■音シャットフレームの施工について①■

音シャットフレーム ゴムピッチ



音シャットフレームの施工イメージ図



仕上げ側は穴を避けてスチール部に軽天ビス止め

音シャットフレームは片側に穴が空いています。
穴が空いている面を仕上げ側にして使用します。

下地側は穴を通してスチール部ごとコンパネビス止め

音シャットフレームの 固定方法

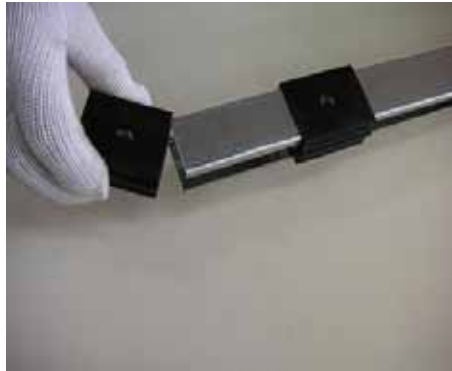


下地が木質の場合、音シャットフレーム
ゴム部の穴からコンパネビスまたは
同等品をインパクトドライバーにて
固定してください。



下地がコンクリートの場合、音シャット
フレームゴム部・軽量材の裏側に接着剤
を塗り固定してください。（床のみ）

音シャットフレームの 切断方法



音シャットフレーム切り詰め時はカット後ゴムを外し、切った端部にゴム部を差し込みます。
新規ゴム部にステップドリルで穴あけしてください。

音シャットフレームを 並べる



音シャットフレームを並べる際は、音シャットフレームと音シャットフレームを離して
並べてください。上貼りの合板は離れた音シャットフレームをまたいで施工してください。
取り合いによっては、音シャットフレーム間の距離を調整してください。

■音シャットフレームの施工について②■

床



床：音シャットフレーム
303mm ピッチで施工

壁際に常設荷重がある場合は、壁際に木根太を入れ
内側に303mmピッチで

音シャットフレームを施工する

※音シャットフレーム、

木根太は壁から3mm離してください。



音シャットフレーム間に
ロックウール80k40mm厚を充填



1枚目は音シャットフレームの
ゴム部にビス止め

壁と合板を2～3mm離し、12mm以上の合板を捨て貼りしてください。

※壁と床の縁が切れていないと、振動が伝わり
遮音性能が低下します。

捨て貼り同士は、必ず2～3mm離して
固定してください。

※床鳴りの原因となります。

壁



壁：音シャットフレーム
455mmピッチで施工



音シャットフレーム間に
ロックウール80k40mm厚を充填



石膏ボードを2重貼りしてください。
必ず下貼りの石膏ボードとジョイント
位置をずらし固定してください。

1枚目は音シャットフレームのゴム部にビス止め

2枚目はボンドを併用してタッカー止めにて施工してください。

重量物を固定する場合は下地を石膏ボードから合板に変更してください。

天井



天井：音シャットフレーム
303mmピッチで施工



音シャットフレーム間に
ロックウール80k40mm厚を充填

※天井は少し大きめにカットし充填すると
落下しにくいですが。



石膏ボードを2重貼りしてください。
必ず下貼りの石膏ボードとジョイント
位置をずらし固定してください。

■ 音シャットフレームの施工について③ ■

合板・ボード、ジョイント部の対応



合板・石膏ボードは、基本的にゴム部にビス止めしますが、ジョイント部がスチール部になる場合、付属のゴムパッキンをカットし写真のように貼付け施工してください。

レベル調整

基本的に音シャットフレームでの不陸調整は不可です。
5mm 程度までの不陸調整は右記の様に对应してください。
それ以上は事前にセルフレベルングにて対応をお願いします。



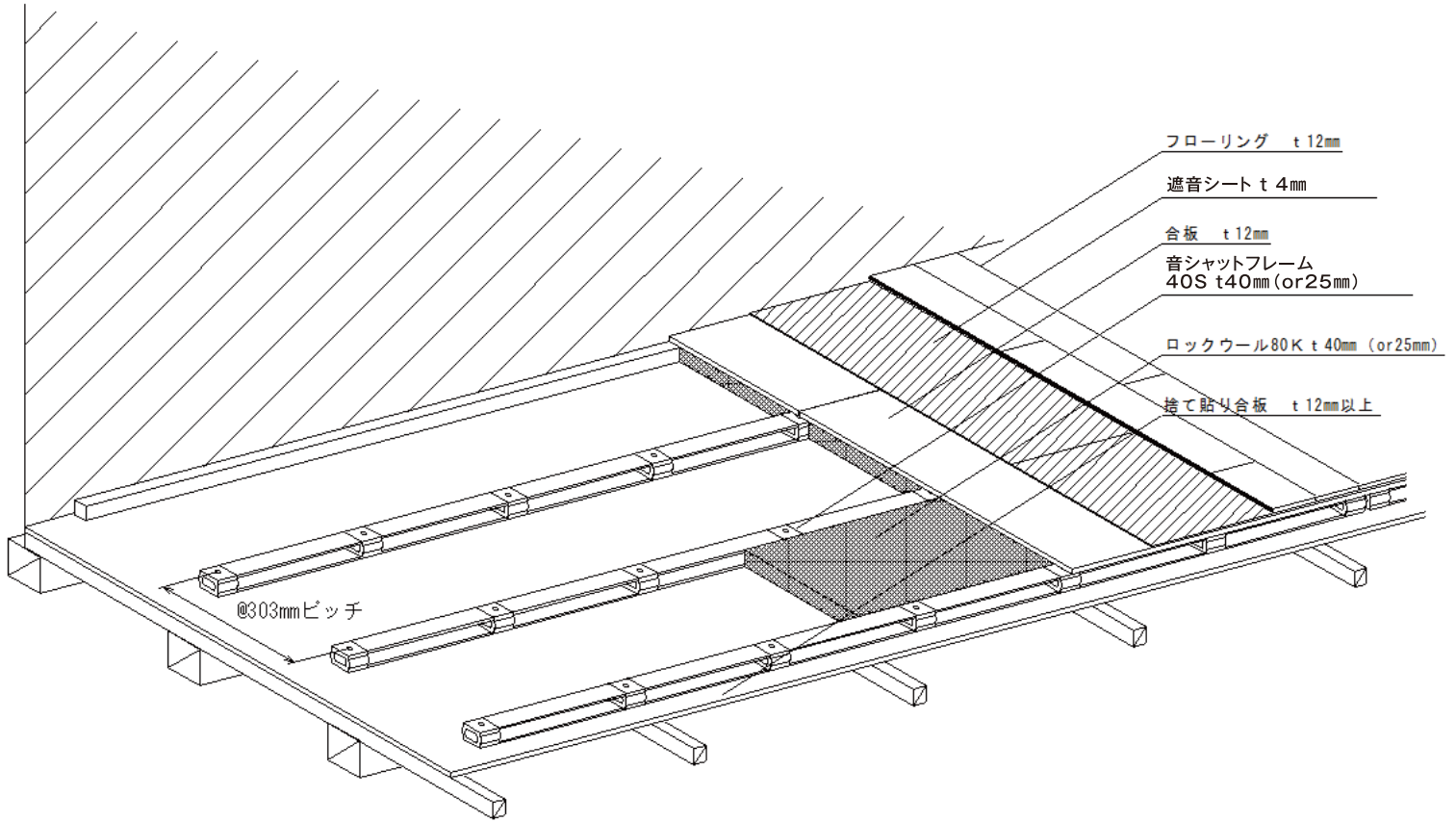
下地のレベル調整は、音シャットフレームの下にカットベニアなどを敷き込み調整してください。

音シャットフレーム施工時の注意点

- 音シャットフレーム・捨て貼り・仕上げフローアは確実に壁より離して施工してください。
- 捨て貼り合板と合板の接合部は確実に離して固定してください。踏み鳴りの原因となります。
- 音シャットフレームはフレームが薄い金属製です、必ず軍手をご使用ください。手を切る可能性があります素手では危険です。
- 音シャットフレームのフレーム部に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- 捨て貼りを施工後に重量物を落としたり、投げたり、一箇所に集中して仮置きをしないでください。音シャットフレーム支持フレームが破損する恐れがあります。
- 木製巾木をご使用の際は、クッション付き巾木をお選びください。

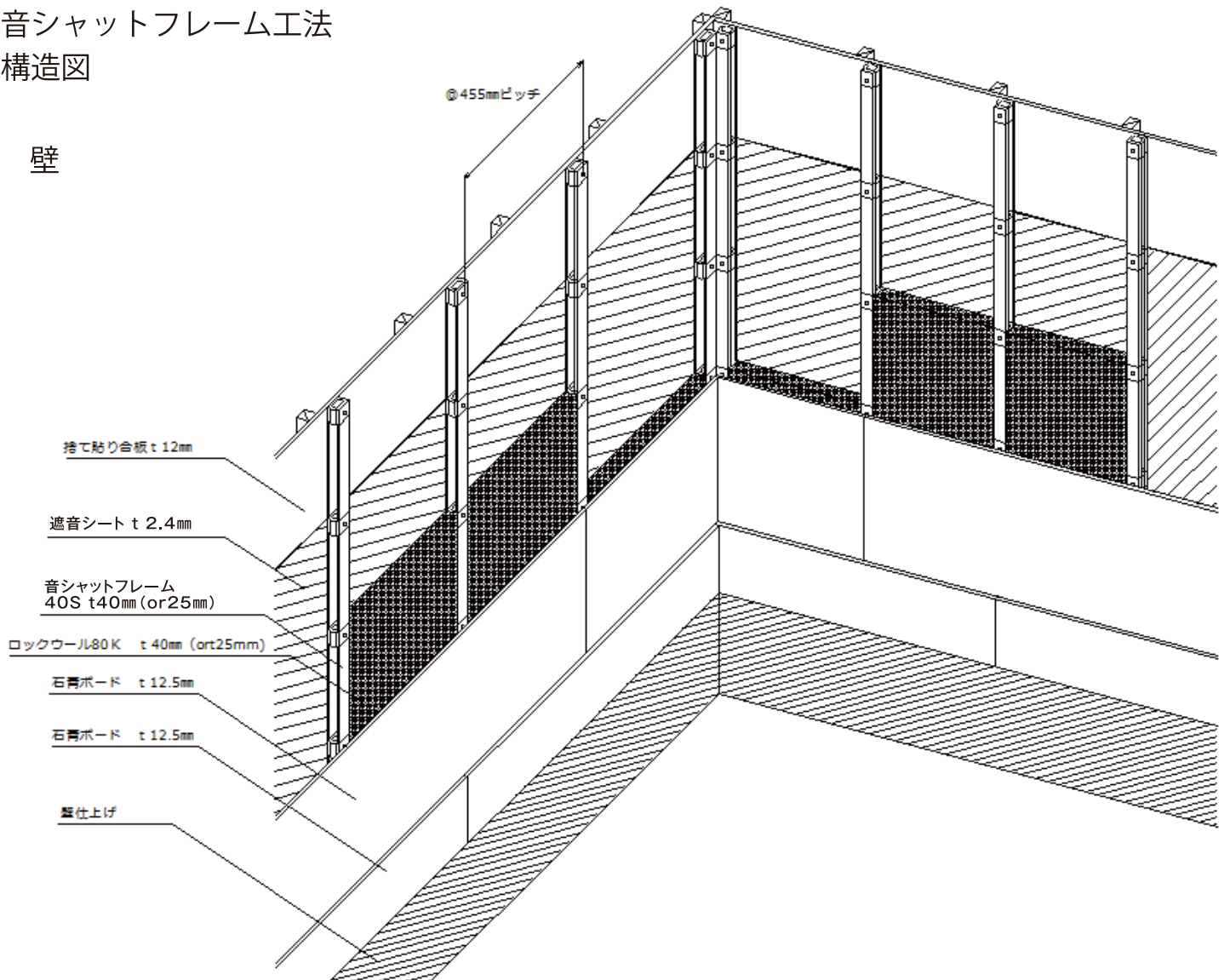
音シャットフレーム工法 構造図

床



音シャットフレーム工法 構造図

壁



音シャットフレーム工法 構造図

天井

